



あゆみの家祭（ぐっどらんの仲間集合、10月7日開催）

あゆみの家

No. 137号

福祉の仕事の魅力発信

二〇年ほど前までは、職員を募集するときは、ハローワークに求人を出しておけば、それほど苦労することなく必要な人材を確保できていました。一五年ほど前から、人材確保の環境が少し厳しくなり、1回3〜5万円ほどの費用で新聞折込の求人広告（一枚の広告に二〇〜三〇社程度掲載するもの）を利用するようになりました。一〇年ほど前からは、その広告でもほとんど応募がない状況となり、こんどは、あゆみの家独自の求人広告を一枚作成し、新聞に折込むことにしました。その広告で二三年間ほどは、応募者があり、数名は採用することができました。そして五年ほど前からは、紙の広告の新聞折込では、全く応募が無くなり、費用はかなりかかりますが、マイナビ、テュウタなどのネットの求人媒体を多く利用するようになりました。そして現在は、その費用をかけた求人媒体を利用して、ほとんど採用ができない状況となってしまっています。

このように、この二〇年で、人材確保の環境は大きく変わりました。あゆみの家は、主に知的障がいのある方たち、それも比較的重度の方に利用いただき、そのひとりのニーズに応えるため、通所施設、入所施設だけでなく、ホームヘルプサービス、グループホームなど、さまざまな福祉サービスを実施できるようになってきました。

しかしながら、ここに来て、人材確保の壁にぶち当たってしまいました。職員の確保ができず、職員不足で一部の事業を縮小せざるを得なくなっています。ニーズがあり、なんとか受入れをしたいという思いはあっても、実際にはできないという大変残念な状況です。

あゆみの家では、一昨年度から経営企画室を発足し、この人材確保の壁に立ち向かってきました。ユーチューブ広告、大学訪問、各種就職フェア参加、インターンシップ受入れ等に取り組み、新卒採用は、昨年度4名、今年度3名を確保できました。しかしながら、まだまだ人材不足は解消できていません。人材確保のための一つの課題は、「この仕事の魅力をいかに伝えるか」だと思っています。岐阜県社協でも、「福祉の魅力知らせ隊」が学校へ訪問する活動が数年前から始まっています。

この仕事は障がいのある人達と共に楽しみ、共に喜び、よき豊かな人生を支えていく。本当に魅力のある仕事だと思っています。

この魅力の発信力をさらに高めて、さらなる人材確保につなげ、利用者のニーズに添えていきたいと思っています。

悲しんでいるクリスマス

理事 後藤 直紀



クリスマスシーズンになりましたね。きらびやかなクリスマスのイルミネーションが町のあちこちに飾られて、「ああ、クリスマスだなあ、一年早いなあ」と、しみじみ思います。そして、どこからともなく流れてくるクリスマスソング。どの曲が流れてきても、不思議となにか心が

楽しくなってきましたよね。
クリスマスソングの中でみなさんはどれが一番好きですか？「ジングルベル」、「赤鼻のトナカイ」、「サンタが町にやってくる」などなど色々あります。
わたしの好きなクリスマスソングのひとつに「クリスマスだから考える」という曲があります。多くのキリスト教幼稚園のクリスマス礼拝で、この曲をみんなで歌います。
このような歌詞です。

クリスマスだからかんがえる。
たくさん、たくさん、たくさん。
かなしんでいるひとのこと。
それからすししかんがえる。

どうして、どうして、どうして。
かなしいことがあるのかな。
クリスマスだからかんがえる。
かなしんでいるひとのこと。

(作詞 阪田寛夫 作曲 服部公一)

今もなお、テレビのニュースでは、争いの場で血を流している人たちの姿を映し出し、そして驚くことにそこはイエス・キリストがクリスマスにお生まれになった国であるという現実をわたしたちに突き付けます。
神はこの現実にとのように関わっておられるのでしょうか？

約二千年前、十字架の上でイエス・キリストは血を流されました。イエスだったら、いま血を流している人のために何をされるでしょうか？わたしたちは、その人たちのために何ができるでしょうか？

「そばに來ると、その人を見て
憐れに思い、・・・介抱した。」
「イエスは言われた。『行って、
あなたも同じようにしなさい。』」
(ルカによる福音書

一〇章三三節、三七節)



笑顔溢れる夏祭り！

夏祭り実行委員 生活支援員 古澤里奈

今年度の第二あゆみの家の夏祭りは、久しぶりに夕刻から夜の時間帯での開催となりました。

過去の夏祭りは、夕刻より屋外で開催していたと耳に聞いていましたが、ここ数年は猛暑の為、近年は日中に屋内で実施して行きました。新型コロナウイルス感染症の五類移行により、規制が緩和された今年、久しぶりに夕刻からの屋外開催を想定し、実行委員会中心に計画を進めていきました。過去の夏祭りを知らない職員が多い中、更に夕刻にかけての開催となると中々想像がつかず、どうすれば利用者の皆様が安全に楽しめる夏祭りになるのかを、施設長や委員会のメンバーと何度も話し合いながら準備を進めました。模擬店のメニューについては栄養士とも相談を重ね、提灯ややぐらも手作りし、夏祭りの雰囲気づくりにも力を入れました。残念ながら、気温の高さが続いたこと、夕方になっても気温が下がること、期待できず、暑さによる体調不良や熱中症になるリスクもぬぐい切れないことから、屋外での開催は断念し、前日に作業棟内での実施を決めました。

夕刻での開催となった為、きずなの利用者の皆様は同時刻での参加が難しく、午後の活動にてゲーム大会を企画させて頂き、開催しました。ゲーム大会では、複数のゲームをそれぞれで行い、点数を競い合う形で実施。皆様が楽しんで取り組まれ、笑顔溢れる時間となりました。今回、第二あゆみの家利用者と同様の参加は叶いませんでしたが、当日を楽しみにされている方の姿は、とても励みになりました。



↑ : 歌って踊って！カラオケ大会
↓ : 盆踊りコンテスト (手作りやぐらを囲んで...)



さて、第二の夏祭り当日は、前日に開催場所の変更を決めたため、試行錯誤の連続でした。それでも、職員同士意見を話し合い、作業棟内を飾り付け、開催することができました。夏祭りのメインイベントにはカラオケ大会を企画しました。事前に伺った曲目を笑顔で歌ったり踊ったりする利用者の方々の姿にこちらも楽しくなり自然と口ずさんだり一緒に踊ったりと時間を忘れて楽しみました。ゲームコーナーでは、輪投げや射的等でスタンプを集めながら楽しめる姿に、私も嬉しくなりました。夏祭りの最後には盆踊りコンテストを開催。入賞者には施設長より「素敵な盆踊りだったで賞」が贈られました。

夏祭りの開催を通して、利用者の皆様の笑顔を見ることができ、支援者としてこれからも皆様の笑顔溢れる活動を作っていきたいと改めて実感しました。今後も笑顔溢れる第二あゆみの家であるよう、職員一丸となって日々支援に取り組んでいこうと思っております。

「体験と経験」

西濃障がい者就業・生活支援センター

精神障がい者就労支援ワーカー 竹中秀友

私たちのセンターは、あゆみの家の坂の下、ルターホーム内に事務所を構えています。表立って看板もなく、あゆみの家の利用者、保護者の方とは、あまり接点がありませんので、ご存じない方が多いかもしれません。

名は体を表すという言葉がありますが、私たちのセンターはまさにその通りで、西濃圏域の障がいのある方の仕事と生活を併せて支援するセンターです。不安なく仕事をして定期的に収入を得る事で、安定した生活を維持出来るため、どちらも同じくらいに大切です。

そのために、仕事面であれば企業はもちろん、就労分野の支援機関である地域障害者職業センターやハローワーク、生活面であれば保健医療や福祉分野、その他にも教育分野の方とも日常的に連携をしています。直接訪問する事も多いため、不在がちになっています。

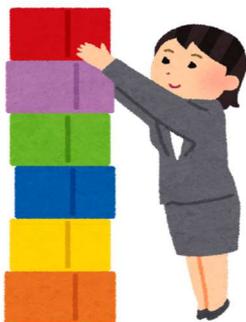
ところで、一般的に就職活動は、ハローワーク等で雇用条件を確認した上で応募する事を決め、書類選考や面接を経て採否が決まっていきますよね。ですが求人票の情報だけでなく、働きたい職場で試しに実際に働いてみる事が出来れば、より不安なく就職する事が出来る場合があると思いますか。社会経験が少ない方、または想

像する力に限界がある方ならばなおさらだと思えます。そこで、私たちは、岐阜県の独自制度である、「障がい者チャレンジトレーニング」という実習制度を活用して実際に働く体験をもらう事で、就労にあたっての不安の軽減と同時に、雇用する立場である企業の不安も軽減出来るような支援をしています。

もちろん、チャレンジトレーニングをすれば全て上手くいくわけではありません。実施した上で就職、雇用に至らない事も少なくありませんが、体験を振り返った結果そうなるのはやむを得ないと思っています。

ただし、振り返る事で学びを得て、体験が経験となり、その経験を自分の判断基準として利用出来るようになっていきます。自分自身の意思を、五感を駆使した体験から得たものを材料にして表せる事も、就職する事同様に大切ではないかと思えます。

そういう方が増えれば良いなと思いつながら、これからもチャレンジトレーニングに限らず、さまざまな体験の機会を提供出来るよう取り組んでいきたいと思えます。



体の健康はお口から

医療連携で、歯の健康を保つ

きずな2006・第二あゆみの家

看護師 北村 万貴子

体の健康を考えるうえで、食べ物美味しく食べたり全身の病気を予防したりするためにも歯を健康に保つことが大切です。虫歯や歯周病が悪化すると、食べ物を食べるのが苦痛に感じてしまう等、日常生活において支障が起きてしまうことが多いです。その結果、食べる意欲が無くなることや違う病気を誘発する事もあります。しかし、歯の痛みが出ないと歯科受診しない事が多く、虫歯や歯周病が悪化してしまい、治療に時間を費やす事から日々の口腔ケアの大切さを感じます。特に、利用者様の中には歯磨き支援で難しい場面が多々あり、スタッフも支援の難しさを感じています。その中でも改善していく必要がある為、ここ数年では約八割の方が歯科への定期通院へ行くようになり、残りの約二割の方は歯科医師会の巡回歯科を取り入れていきます。病院に任せるだけではなく、日々の口腔ケアにも重きを置く必要があります。そのため、現在スタッフのスキルアップのためにも、できる範囲で歯科受診へ付き添い、歯科医師や歯科衛生士から個々の歯に合った歯磨き指導を受けています。付き添える人数にも限りがある為、外部講師を招いての勉強会も開かれました。新しい学びを得る中で、歯科受診ができていない方に対して検討し模索した結果、訪問歯科協会の協力を得て訪問歯科との連携を取り入れ始めました。これからは、訪問歯科医との連携で今まで受診が困難だった利用者様や受診に付き添えず直接学ぶ機会が無かったスタッフも、歯科医院が入所施設や



グループホームに定期的に来て頂くことで直接学べる場所にしていきたいと考えています。利用者の方々にはいつまでも自分の歯で美味しく食べ、健康な生活を送ってほしいと思っています。今後も日々の口腔ケアに重きを置き、健康な歯を保てるように努力していきたいと思っています。



外部講師を招いた職員研修の様子
 上：歯ブラシの当て方
 下：歯磨き支援の実践と体験

みんなで繋がろう！

楽しくワクワク笑顔いっぱいのおゆみの家祭

あゆみの家祭実行委員長 三宅 雄太



昨年のあゆみの家祭は新型コロナウイルスの影響下もあり各事業所での開催となりました。「来年こそ集まれるといいね」と話されていた利用者の方の言葉がこの一年間ずっと自分の胸の中に残っておりまして。

五月に新型コロナウイルスの措置が五類に引き下げられ、世間でも自粛ムードを脱し、いよいよあゆみの家祭開催に向けての準備が開始されました。しかし、今もなお感染の恐怖がおさまっていないことや、雨天により開催の中止や小規模化してきた背景もあって、職員側でもあゆみの家祭を知らなかったり、どうすれば利用者の皆さんに楽しんでもらえるのか分からないといった意見も多くなりました。そんな中、昨年同様、ビデオ通話を利用して各事業所から利用者実行委員をつのり、何度か話し合いの場を設けました。「ステージで発表がしたい」「模擬店で美味しいものが食べたい」「伊舞木座さんの演奏がもう一度聞きたい」と

と多くの要望があり、利用者実行委員のメンバーの皆さんも期待を膨らませていました。綿密な打ち合わせを重ね、いよいよあゆみの家祭当日を迎えました。

当日、天候にも恵まれ七年ぶりに屋外での開催となりました。最初のプログラムであるオープニングにて利用者実行委員の代表が歌った「野に咲く花のように」を聞いた時には、皆が望んでいたあゆみの家祭をようやく実施することができ目頭が熱くなったのを覚えています。続いて「関ヶ原合戦太鼓華の陣」による迫力ある和太鼓演奏を聴きました。演奏終了後、まさかのアンコールも沸き上がり「和太鼓でアン



関ヶ原 合戦太鼓



デイセンターあゆみの家発表



伊舞木座 演奏

コールをもらったのは初めてです。皆様の温かいお気持ちに感謝しかないです」とゲストの方も最後まで楽しんでいました。その後、各事業所の発表にうつり、これまで練習してきた成果を皆さんの前で発揮され、皆さんとてもいい表情で発表をされていました。お弁当や模擬店を食べ終え、いよいよ後半に突入し、「じゃんけんゲーム大会」の後にはあゆみの家祭にはかせない「伊舞木座」のステージがありました。「しばらく会わないうちに皆さんも僕らも年をとりましたが、こうやってあゆみの家祭に呼んでいただいて感謝しかないです。これからもずっと続けていきたいと思います」と話され、エンディングで歌った「丘の上のあゆみの家」は皆さんの素敵な歌声が響き渡っていました。

まだ様々な制約もあって、保護者の皆様や地域の方々をお招きすることは困難でしたが、来年も利用者の皆さんと共にさらに盛り上がるあゆみの家祭を計画していくことができたらと思います。利用者の方も職員も、障がいがあってもなくても「みんな繋がりたい」ことを大切にしていけたらと思います。

出来事ピックアップ



8/9(水) ひまわり畑
(きずな2006)



8/19(土) 夏祭り
(デイセンターあゆみの家)



9/19(火) 喫茶外出
(第二あゆみの家)



9/21(木) あゆみの家祭創作
(林町デイセンター)



9/26(火) 昼食外出
(ぐっとらんど)



10/1(日) 合原小学校運動会
(第二あゆみの家)

最近のできごと (8/1~10/31)

- 8/12(土)夏祭り(第二あゆみの家)
 8/14(月)お楽しみ食事会「お寿司出前」
 (きずな 2006)
 8/16(水)お楽しみ食事会「ふなやす弁当出前」
 (きずな 2006)
 8/19(土)親子クッキング(林町デイセンター)
 夏祭り(デイセンターあゆみの家)
 (ぐっどらんど)
 8/22(火)喫茶外出(林町デイセンター)
 9/15(金)ホープグループ外食(ぐっどらんど)
 9/18(月)垂井町ご長寿フェア参加(きずな 2006)
 9/20(水)障がい者就労推進セミナー
 (西濃障がい者就業・生活支援センター)
 9/22(金)サポテングループクッキング
 (デイセンターあゆみの家)
 グッディグループ外食(ぐっどらんど)
 9/26(火)福祉サービス事業所との
 ネットワーク会議
 (西濃障がい者就業・生活支援センター)
 9/26(火)ドリームグループ外食(ぐっどらんど)
 9/28(木)喫茶外出(林町デイセンター)
 9/29(金)総合防災訓練(法人全体)
 9/30(土)神社掃除(きずな 2006、綾野ホーム)
 10/ 1(日)あいほら地区運動会参加
 (第二あゆみの家)

- 10/ 4(水)林町デイセンターとの交流
 (デイセンターあゆみの家)
 10/ 7(土)あゆみの家祭(法人全体)
 クリーン活動(きずな 2006、綾野ホーム)
 10/21(土)土曜日活動「BBQ」(林町デイセンター)
 運動会(第二あゆみの家)
 10/27(金)夜間避難訓練(第二あゆみの家)
 10/29(日)日帰り旅行「あいち航空ミュージアム
 ざうお小牧店」(きずな 2006)
 10/31(火)日帰り旅行「メタセコイア並木」
 (林町デイセンター)
 8/3~4、24~25、9/14~15、21~22
 宿泊体験(林町デイセンター)

行事予定

- 12/23(土) クリスマス祝会(法人全体)
 12/25(月) クリスマス礼拝(職員)

ボランティア(8/1~10/31)

- 毎週火曜日午前 学生ボランティア 1名
 10/ 3(火) フルートアンサンブル イデアーレ 4名
 フルート生演奏(林町デイセンター)
 10/ 7(土)1名、10/26(木)1名(デイセンターあゆみの家)

ふれあい交流(8/1~10/31)

- 10/17(火)綾里幼保園との交流会(ぐっどらんど)

編集後記

屋外で開催された「あゆみの家祭」に初めて参加した！という職員は私だけではないでしょう。ジャンプ／笑顔／手拍子／ダンス／声援／歌声／真剣な眼差し／緊張／寄り添い これは私が感じたものを切り取った言葉です。優しく穏やかな時間がそこには流れていました。誰もが自由に楽しめる空間は心地の良いものです。あゆみの家に集められた方たちと、共に過ごすことができ改めて感謝した1日でした。

(神崎愛子)

編集：社会福祉法人あゆみの家
 〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2
 Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <https://ayumi-ie.com/>
 E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp



グループホームのご案内

- | | | | |
|---------------------|----------------------|--------------------|----------------------|
| ●めぐみホーム
不破郡垂井町表佐 | ●東神田ホーム
不破郡垂井町東神田 | ●別庄ホーム
養老郡養老町橋爪 | ●養老公園ホーム
養老郡養老町養老 |
| ●綾野ホーム
大垣市綾野町 | ●表佐ホーム
不破郡垂井町表佐 | ●あいかわホーム
不破郡垂井町 | |

おおぞら 〒503-2123 不破郡垂井町栗原2066-2 / TEL 0584-22-4998